

平成24年度  
岡山県学力・学習状況調査

# 調査問題を活用した授業改善のポイント

岡山県教育庁指導課

社 会

根拠に基づいて自分の考えを表現する力を育成するために

## H24 県学力調査問題から

### ○考えをもち表現する学習の工夫

- ・複数の資料を扱う
- ・本当にそうなのか、なぜそうなのかを問う
- ・対話形式の学習活動

### ○社会科における言語活動の充実

- ・社会的事象と言葉をつなげる
- ・子どもも教師も学習した言葉を使う活動を

### ○つながりを意識して

## H24 県学力調査問題から

4

のぞみさんたちは、日本の食料生産にかかわる問題について話し合っています。次の会話文を読んで、あとの問いに答えなさい。

のぞみ 「昨日、家族で農産物の直売所に行ってきたわ。地元でとれたものを地元で消費することを地産地消と言うのよね。」

しんご 「地産地消のよさは、消費者にとって、( A )食材を買うことができることだね。また、生産者にとっては、( B )や生産規模が小さくても対応できることなどの利点があるよ。」

ひろき 「国は、食料自給率の向上に向けて、地産地消を積極的に推進しているよ。なにしろ、①日本の食料自給率は50%を下回っているからね。

のぞみ 「②米の自給率は100%に近いけれど、小麦や大豆は20%以下だものね。

しんご 「しかし、③米はここ50年ほどの間に消費量も生産量も減ってきているよ。

ひろき 「それは、日本人の食生活の変化とも関係があると思うよ。」

のぞみ 「確かに、私は毎朝パンを食べているわ。それに、外国産の牛肉や野菜をスーパーマーケットでたくさん見かけるようにもなったわ。」

しんご 「④アメリカやオーストラリアの農家は、広い耕地を所有しているよ。だから、値段の安い農産物がたくさん輸入されているのだね。でも、輸入にばかりたよっていると、日本の食料生産の将来が心配だよ。」

ひろき 「食料自給率を向上させるために、地産地消を進めることは大事だね。そして何より、日本人の主食である米をつくる農家が元気になる取り組みも大切だと思うよ。」

のぞみ 「だから日本では、米の生産や販売の工夫をしているのね。」

### < 出題のねらい >

日本の食料生産について、根拠となる資料を選択したり、資料を基に具体的に説明したりすることができるかどうかをみる。

(2) 会話文の下線部①～④の発言の基になっている資料を選ぶ

① 日本の食料自給率は50%を下回っている。

② 米の自給率は100%近いが、小麦や大豆は20%以下。

③ 米の消費量と生産量は5年間で減少している。

④ 米国や豪州の農家は広い耕地を所有している。

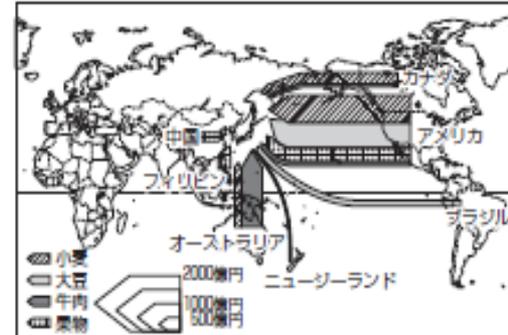
## (2) 会話文の下線部①～④の発言の基になっている資料を選ぶ

ア おもな国の農業など従事者  
一人あたりの耕地面積(2006年)

国名	耕地面積 (ha)
日本	2.4
中国	1.1
ブラジル	22.5
アメリカ	150.5
オーストラリア	993.0

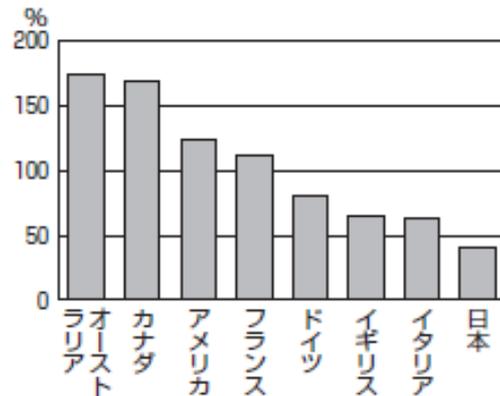
(『世界国勢図会』)

ウ おもな食料の輸入先と輸入額(2009年)

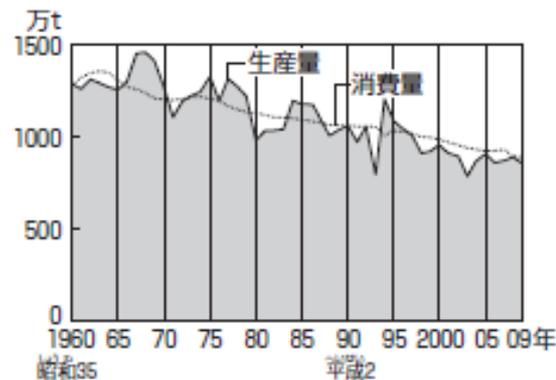


(財務省)

イ おもな国の食料自給率(2009年)

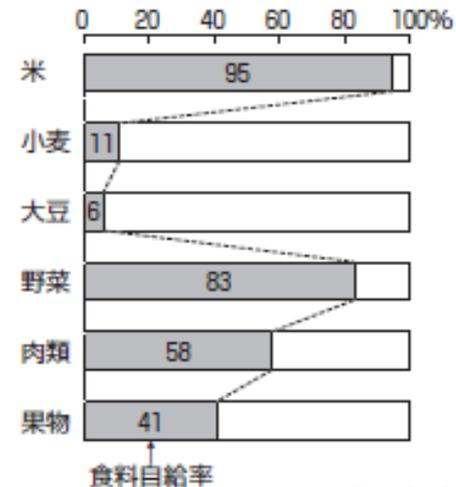


エ 日本の米の生産量と消費量の変化



(『食料需給表』)

オ 日本のおもな食料の食料自給率(2009年)



(『食料需給表』)

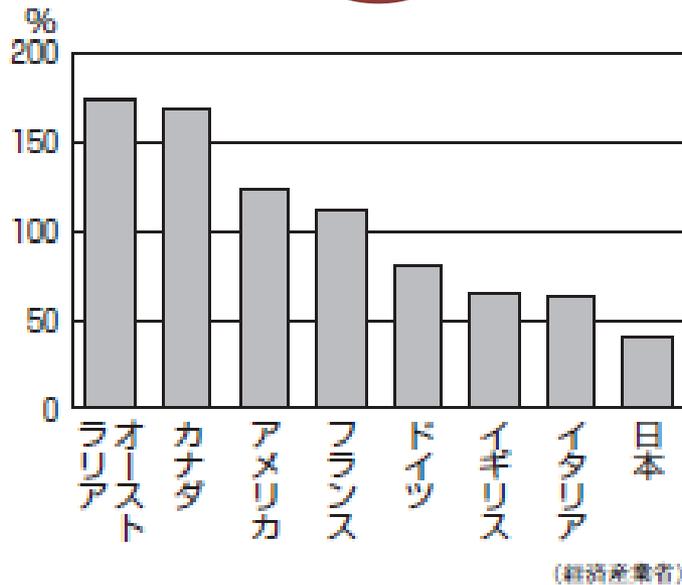
複数の資料を扱う

(2) 会話文の下線部①～④の発言の基になっている資料を選ぶ

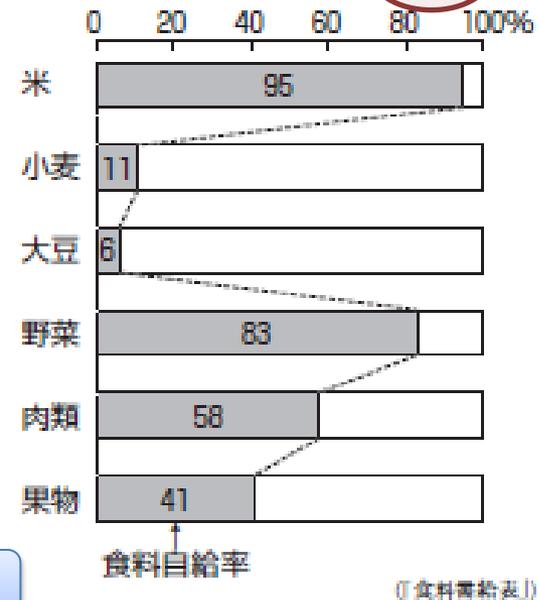
① 日本の食料自給率は50%を下回っている。

② 米の自給率は100%近いが、小麦や大豆は20%以下。

イ おもな国の食料自給率(2009年)



オ 日本のおもな食料の食料自給率(2009年)



授業では

「自給率」という言葉を基に資料を選ぶ



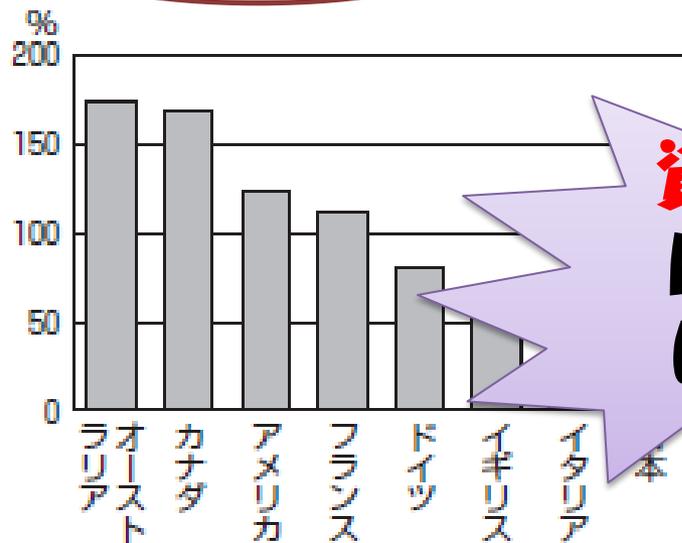
必要な資料を集める

(2) 会話文の下線部①～④の発言の基  
なっている資料を選ぶ

① 日本の食料自給率は  
50%を下回っている。

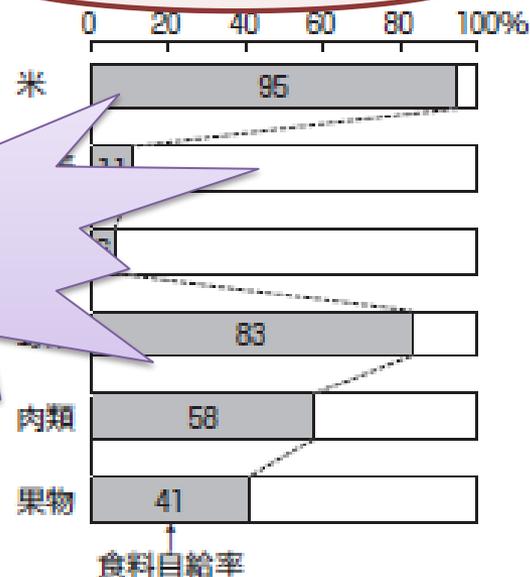
② 米は100%近いが、  
小麦や大豆は20%以下。

イ おもな国の食料自給率(2009年)



(経済産業省)

オ 日本のおもな食料の食料自給率(2009年)



食料自給率

(「食料自給率」)

資料過多  
にならない  
ように

授業では

説明の内容に応じて適切な資料を選ぶ → 選んだ資料を使って説明する

## 「本当に問題なのか」を問う

輸入相手国にとってはどうなのか

昔の自給率は  
どうだったのか

自分は困っていないが、  
だれが困るのか

米と野菜が自給できていればよいのではないか

## 「なぜ問題なのか」を問う

なぜ世界中の国から  
輸入しないのか

なぜこんなに自給率が  
下がったのか

安くておいしい外国産の  
食料がなぜ問題なのか

主食の米が100%近い自給率なのに、  
なぜ全体は50%以下になるのか

自分の考えをもつ

## 対話形式の学習活動

これらに  
つながる

- ・児童一人一人に社会的な見方や考え方を養う(多面的に)
- ・各種の基礎的資料を効果的に活用させる
- ・調べたことや考えたことを表現させる

(小学校学習指導要領解説より抜粋)

- ・習得した知識を活用して考えたことを説明させる
- ・自分の意見をまとめさせることにより、思考力、判断力、表現力等を養う
- ・資料を読み取って解釈させたり、議論などを行って考えを深めさせたりする

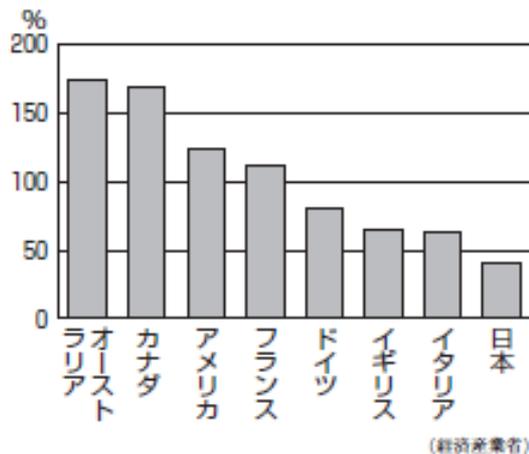
(中学校学習指導要領解説より抜粋)

## 対話形式の学習活動

左下のグラフを見てください。日本の食料自給率は50%を下回っているので問題だと思います。なぜなら、もしも輸入がストップしたら、…

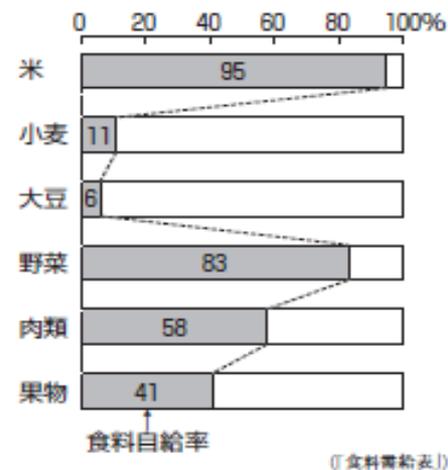


イ おもな国の食料自給率(2009年)

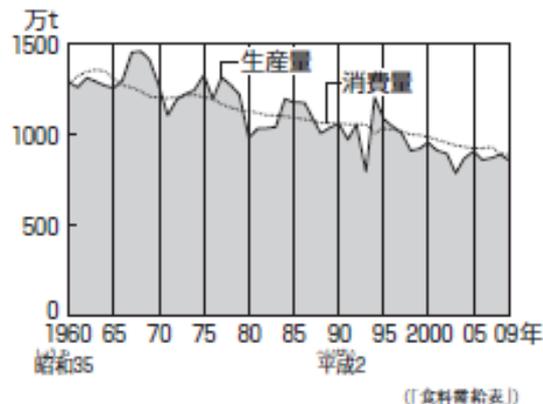


次に、右の2枚のグラフを見てください。米の自給率は100%に近いですが、小麦と大豆の自給率が問題です。なぜなら…

オ 日本のおもな食料の食料自給率(2009年)



エ 日本の米の生産量と消費量の変化



根拠に基づいて考えを表現する

## 社会的事象と言葉をつなげる

よく聞く言葉

板書例

言葉の意味が  
わかる説明や議論の  
中で使える

「地産地消」どこで見た？聞いた？

- ・直売所でのぼりを見た
- ・スーパーの魚売り場で歌が流れていた
- ・道の駅で買った野菜や果物は新鮮だった
- ・岡山県産の米粉を使ったパンを買った
- ・カキまつりでも地産地消ののぼりを見た
- ・家族がお弁当コンテストに出場した
- ・地産地消がテーマの大きな祭りをしていた
- ・北海道から送ってもらったジャガイモの箱に「地産地消」と書いてあった

なぜそんなに  
さかんなのか

とれたてが味わえる？

岡山県でもさかん

野菜

農産物

水産物

魚

貝

米

米粉パン

地元でとれたものを  
地元で消費すること

とは

を

地産地消

という。

# 社会的事象と言葉をつなげる

**めあて** 不平等条約はなぜ改正されたのだろう。

(予想)

- 外国がやさしくしてくれた。
- 外国にお願いした、交渉しに行った。
- 二つの戦争に勝った。
- 国民が願った。

早く不平等条約を改正してほしい。

(調べる) 教P85 (資) P71

**条約改正** **まとめ**

ノルマントン号事件 イギリス船

国民の願い

鹿鳴館 政府が近代化により国の力をつけたこと

1883年 鹿鳴館

1889年 大日本帝国憲法発布

1894年 日清戦争

1904年 日露戦争

洋風化 日本近代化

アジアで初めて近代化

日本が勝つ

外国との交渉

1894年 治外法権廃止 外務大臣 陸奥宗光

1911年 関税自主権の回復 外務大臣 小村寿太郎

陸奥宗光 小村寿太郎

外国との交渉

1858 江戸幕府が欧米諸国と不平等条約を結ぶ

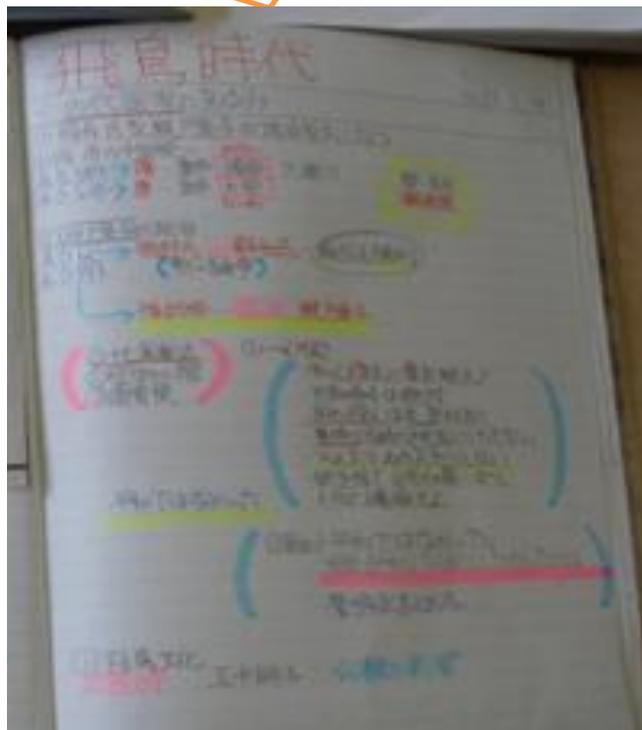
1868 明治維新

1871 岩倉使節団がアメリカと交渉

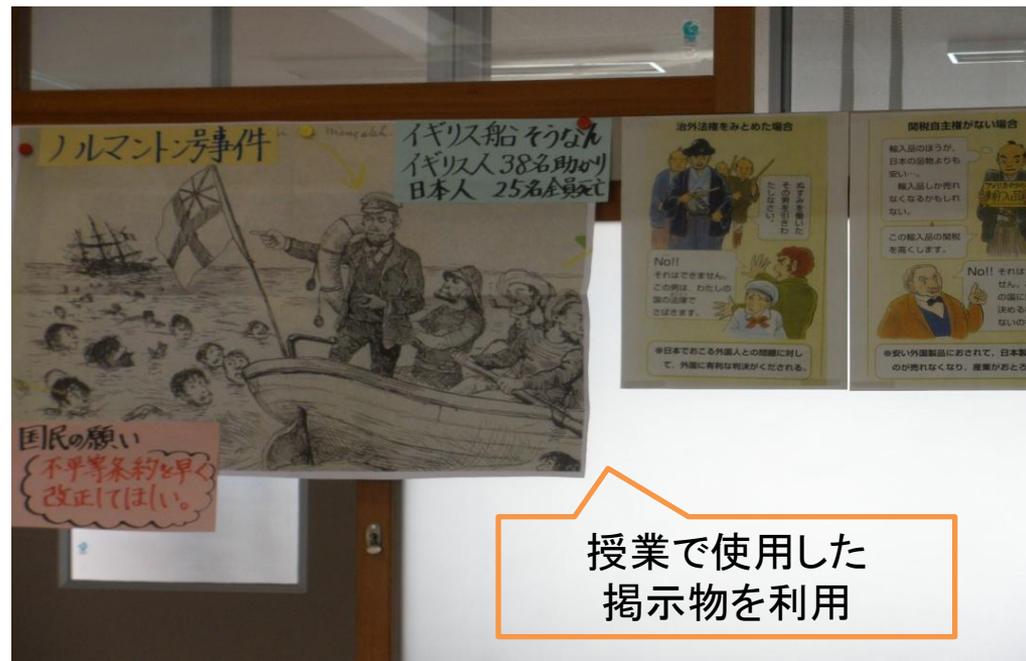
- ・言葉の意味するものやその後の影響が分かるように線をつないでいく。
- ・絵や写真などを言葉と一緒に並べて板書する

# 子どもも教師も学習した言葉を使う活動を

学習した言葉だけでなく、自分の考えも書いているノート



学習した言葉がよく見える掲示



授業で使った  
掲示物を利用

学年当初は特にていねいな指導が必要

## 小中のつながり

## 「食料自給率」でみると

小学5年  
「我が国の農業や水産業」

- ・食料生産の意味そのものを考える学習
- ・生産を高める工夫や努力について具体的に考える学習(人の働き)

中学校地理的分野  
「日本の農林水産業」

世界から見た日本の特徴を農林水産業を通して捉える学習

学習内容と学習方法 両方のつながりを

## 生活科とのつながり



本や資料で調べるだけではなく、実際に調べに行ってみたいな

地域の文化財に触れて感じたことや見つけたことを話し合う活動



地域の博物館などを見学してレポートや新聞をつくる活動



公共物や公共施設を活用して気付いたことを話し合う活動



地域に出かけて地域の人と対話する活動



働いている人取材してその場でメモをとり、教室に帰って説明したりまとめたりする活動



問題解決的な学習や体験的な活動、表現活動などを工夫